

もみじ園と巴ヶ丘山荘

巴ヶ丘山荘は裕福な高橋家によって 1896 年に建てられ、周囲にはモミジや桜が植わる大きな庭園を有しています。1989 年に「もみじ園」と呼ばれる公共の庭園になりました。庭園に植わる 400 本を数える木の多くは樹齢 150 年を超えています。季節の花々や植物、石灯籠、利水の装飾物、仏像などが境内を彩ります。もみじ園は、春は桜、秋は鮮やかな紅葉と 10 月末から 11 月下旬までのもみじ祭りで人気の観光スポットです。

もみじ園は 4 月から 11 月の間は水曜日を除いて毎日開園しており、時間は午前 9 時から午後 5 時です。庭園は入場無料ですが、巴ヶ丘山荘のガイドツアー（日本語のみ）は 200 円の費用と事前予約が必要です。入口の門の近くには蔵を改装した「高九蔵 Cafe」があり、ドリンクやスイーツ、軽食を提供しています。カフェは月曜日、火曜日、木曜日、金曜日に営業しています。

もみじの庭園

もみじ園は約 4,000 平方メートルで、園内の木のほとんどがモミジです。庭園創設の際に京都から特別に 5 種類のモミジが持ち込まれました。5 種類の中、最も本数が多いのは日本に古くから伝わるイロハモミジです。秋にはもみじ祭りが開催され、庭園内は夜間ライトアップされます。普段、紅葉の色合いが最も鮮やかになるのは 11 月中旬です。

もみじ園の庭園にはモミジの他にソメイヨシノやヤマザクラもあります。ここは、東京のソメイヨシノが北国の寒い冬に耐えられるかどうかの実験するために、新潟県で初めて植えられた場所です。現在、木々は生い茂り、春の開花時期には風景に可憐なピンクの色合いを添えます。他にも園内の散策路には季節の花が見られ、もみじ園の東側では市街地のパノラマビューが一望できます。境内には観音菩薩などの石仏が安置されています。

巴ヶ丘山荘

20 世紀初頭まで巴ヶ丘山荘は現在の長岡市神谷地域の大地主、高橋家が所有していました。山荘の建設を命じたのは、一族の 10 代目当主である高橋九郎(1851 年～1922 年)でした。彼は、日本の産業革命期に社会的地位の低い人々の生活向上に尽力したことで知られる政治家でした。英国の経済学者で改革者であるシドニー・ウェブ（1859 年～1947 年）と、その妻で社会学者及び社会経済研究者であるヘアトリス・ウェブ（1858 年～1943 年）を含む多くの影響力のあるゲストが巴ヶ丘山荘を訪れ、彼と討論や意見交換を行いました。

山荘は寄棟造平屋建てです。内部には茶室と「桜の間」、「もみじの間」、「囲炉裏の間」、「松の間」などのポエム的な名前が付けられたいくつかの伝統的な座敷があります。もみじの葉が瑞々しい緑色に染まる春や、鮮やかな赤やオレンジ色に変わる秋、もみじの間からの眺めは特に素晴らしいと言われています。

巴ヶ丘山荘は国の登録有形文化財です。